

-福生ライフ-

Fussa Life

Vol.5
2018年3月

まちをよく知る、まちを考えるマガジン

W O R L D

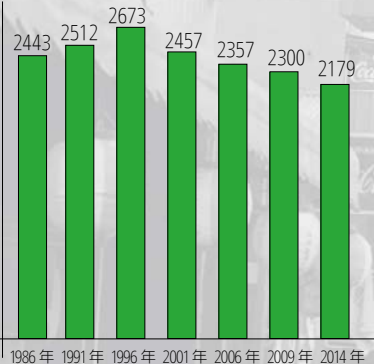


特集

福生ではたらく、
ということ。

福生ではたらくといいこと。

市内の事業者数の推移（官公署を含む）



1986年 1991年 1996年 2001年 2006年 2009年 2014年
 総務省統計局「事業所・企業統計調査」「経済センサス」より作成



銀座通り商店街（昭和43年ごろ）



富士見通り商店街（昭和43年ごろ）

かつて西多摩の商業の中心地だった福生

「休日は歩きづらいくらいだった」
 ある人は、銀座通りの昔を思い返してそう語ります。

酒屋、肉屋、そば屋、本屋など、さまざまな商店が、軒をつらねていた昭和の時代。人と物、そしてお金が行き交い、賑やかな活気に満ちていました。

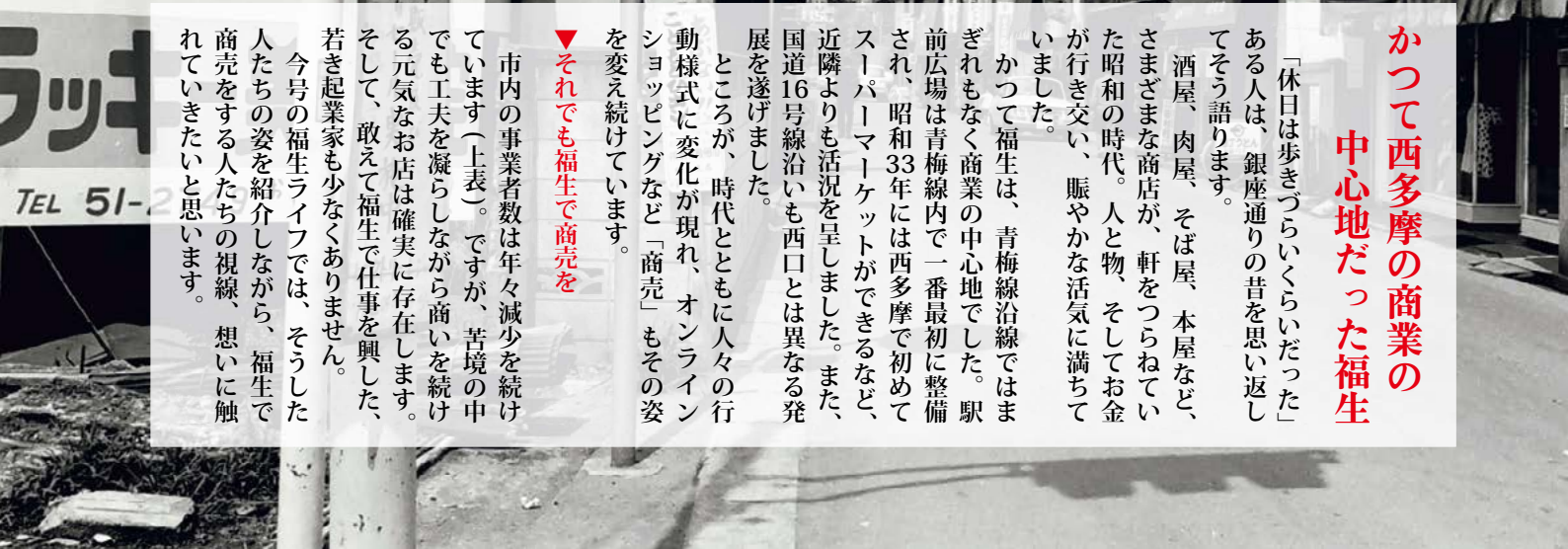
かつて福生は、青梅線沿線ではまぎれもなく商業の中心地でした。駅前広場は青梅線内で一番最初に整備され、昭和33年には西多摩で初めてスーパーマーケットができるなど、近隣よりも活況を呈しました。また、国道16号線沿いも西口とは異なる発展を遂げました。

ところが、時代とともに人々の行動様式に変化が現れ、オンラインショッピングなど「商売」もその姿を変え続けています。

▼それでも福生で商売を

市内の事業者数は年々減少を続けています（上表）。ですが、苦境の中でも工夫を凝らしながら商いを続ける元気なお店は確実に存在します。そして、敢えて福生で仕事を興した、若き起業家も少なくありません。

今号の福生ライフでは、そうした人たちの姿を紹介しながら、福生で商売をする人たちの視線、想いに触れていきたいと思えます。



豊月堂本店



和菓子の伝統を守り続けて 100 年以上、 福生の老舗菓子店

〈DATA〉「豊月堂本店」
【住所】福生市本町 86
【営業時間】午前 10 時～
午後 5 時
【定休日】日曜日
【電話】551・0564



お店で作られた出来立てのお菓子



奥泉隆洋さん

「お店のこだわりは何と言っても『あんこ』。50kgのあんこを作るのに12時間もかかるんです」そう語ってくれたのは、豊月堂四代目店主の奥泉隆洋さん。栄通り沿いにある「豊月堂」は、創業100年を超える老舗の菓子店。

小豆を煮て、アクを取っては水を入れ替える。使用する水はお風呂5杯分に相当するという。「目が離せない仕事が多くて、お店の開店していない時間はほとんど仕込みに費やしています」と奥泉さん。あんこ作り以外にも、季節ごとに様々なお菓子や赤飯、餅などを製造するため、

年間を通じてほとんど休むことなく汗を流す。

だが、どんなに忙しくても「お赤飯美味しかったです」「また来年もお願いします」と、言われることは何にも代え難い。季節ごとのお菓子を合わせると、作る品の種類は50を超える。しかし、さらなる新商品の開発も怠らない。「商品の開発は、難しいことではないです。ロールにしたり、クリームを使ったり…」楽しんで語ってくれた奥泉さんのアイディアは尽きない。豊月堂はまだまだ走り続けている。

あの老舗の若き経営者

まちの歴史を見てきた老舗では、今、次世代の経営者たちが活躍を始めています。お店のこれまで、そしてこれからのことをお聴きしました。

「眼鏡・時計・宝石の井上」は大正5年創業今年で102年を迎える。4代目代表取締役の谷川栄一さんは、先代から「店を継がないか？」との言葉をもらい、平成25年に店を継いだ。

印象に残っている先代の教えは「小さなお店には小さなお店なりのやり方がある。無理に大きな会社と競わないこと」。その教えのもと、谷川さんは「なるべく丁寧に、そして長く使っているものを適正な価格で販売する」ように心がけている。また、顧客一人一人の視力状況を丁寧に測定し、真に合った視力矯正を行う。地域に根差す店として、きめ細かな仕事を大切にするのがモットーだ。

最近、駅前商店街組合の理事になった谷川さん。組合で通りに花を植えたり、定期的に街頭の旗を変えたりと、本業以外にも商店街を盛り上げようと精力的に活動している。

「福生の商店街も『アメ横』みたいに小さい商店がたくさんできて、お客さんの用事がそこで完結するようになるといいな、なんて思っています」と想いを話してくれた。

創業 102 年、「半医半商」 地域に根差した (株) 井上



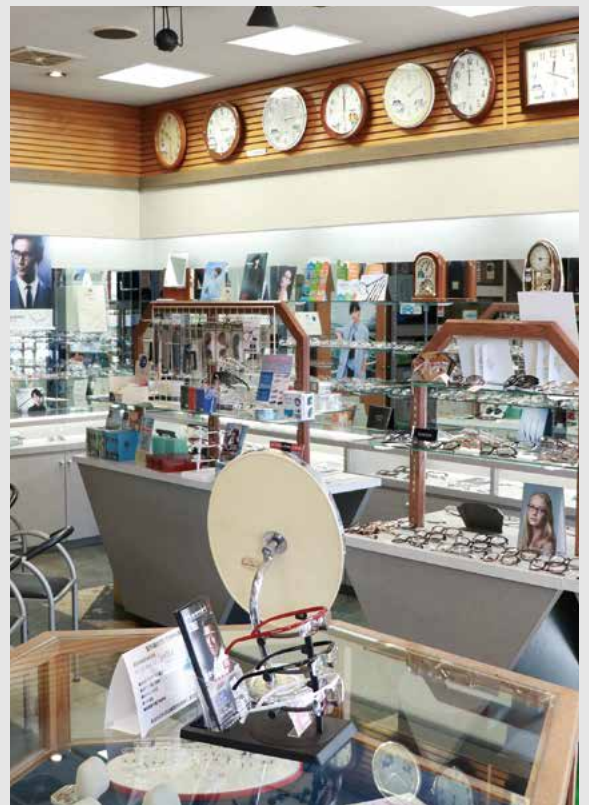
福生駅西口徒歩3分の店舗



谷川栄一さん

〈DATA〉「眼鏡・時計・宝石の井上」
【住所】福生市福生 1047
【営業時間】午前 10 時～
午後 7 時（日・祝日は午後 6 時まで）
【定休日】月曜日
【電話】551・0363

眼鏡・時計・宝石の井上



The Fixxers

entrepreneur

～起業家たち～

国道16号線沿いの商店街に、鮮やかなグリーンとピンクに塗られた、一際目を引くお店がある。「The Fixxers」。靴修理の専門店だ。

16号には10代の頃からよく遊びに来ていたという、オーナーの竹宮淳平さん。都内の靴修理専門店に修業を積み、平成28年の7月に店をオープンさせた。

「16号は一日3万5,000台の車が通り、2名乗車しているとすると、日に7万人の通行者に匹敵する。そして神奈川から千葉までつながっている。ここの景色が好きというのもあるけど、経営的な視点からも魅力的な立地だと思った」と出店の経緯を明かしてくれた。その狙いは当たり、今では横浜や、栃木から大切な靴を持ってくる顧客もいる。

また、商店街理事として、商店街を盛り上げることにも意欲的だ。

「通りにスピーカーをつけてAFN(※)を流したい。福生に遊びに来る人は、アメリカの空気を感じに来る人が多いので、視覚だけでなく聴覚でもアメリカな雰囲気を感じ、楽しんで帰ってもらい、また福生に来たいと思ってもらえるような取組ができれば」と話す。

「僕が16号のお店を見て育ち、今こうしてお店を構えたと思ったように、商店街は若い人の感性を育てる場でもあると思う。自分の店もそういう役割を果たせれば」。

靴修理職人であり、経営者であり、16号のファンである。見ている世界は広い。

(※) AFN…米軍基地関係者向けのラジオ放送。基地の外でも聞くことができる。

時代とともに代わる仕事・働き方。長く愛される老舗がある一方で、今、若い経営者がその感性や熱意を活かして福生の商売に新しい風を吹き込もうとしています。注目のお店の経営者に仕事のこと、まちのことを聞きました。

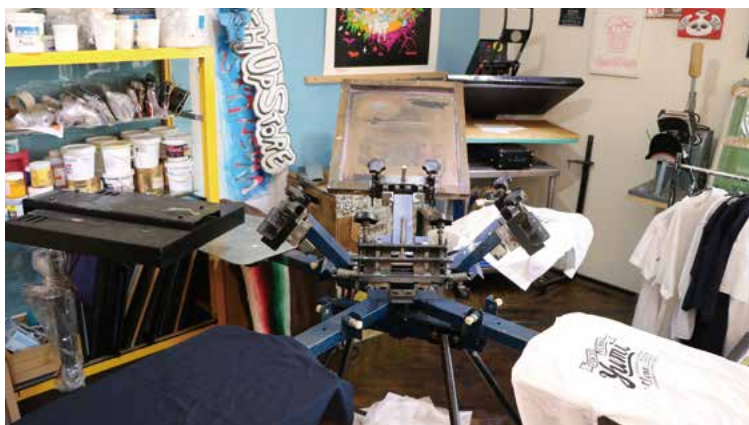
店内には修理を待つ靴などが所せましと並ぶ。修理からクリーニングまで、幅広いオーダーに対応してくれる。

WASH UP STORE

福生発祥オリジナルブランドとスケートボードのアイテムをメインに、16号グッズ等も販売する「WASH UP STORE」。総ディレクターの橋本勇^{はしもといさむ}さんは15年以上東京・原宿とロサンゼルスを拠点にするアパレルブランドの営業・プレスに関わった後、平成28年10月末に子供のころ遊び育った、国道16号線沿いに夢だったマイルームをオープン。

「創業で大事なことは、とにかく動くこと」そう話す橋本さんもまた、日々新しいことに挑戦する一人。創業から1年以上が経ち、自身のアイテムや、仕入れ以外の販売チャンネルを増やすため、商店街の先輩からプリントマシンを受け継ぎ、洋服や帽子などにポイントデザインを入れる、オーダープリントサービスを展開した。1つひとつ手刷りで行うサービスは、多くの顧客から好評を博し、店舗業績にも一役買っている。

また本業の傍ら、商店街専務理事も務める橋本さん。世界中の人が「東京といえばFUSSA（福生）があるよね」と口にするために、仲間たちと16号線沿いを盛り上げる先駆け人でもある。



橋本勇さん

<DATA>
「WASH UP STORE」
【住所】福生市福生 2499
【営業時間】正午～午後8時
【HP】washupstore.com/
【電話】☎ 513・0624

挑戦し続ける 16号線沿いのパイオニア



カラフルな外観が目印。SNS用に撮る方も多いとのこと。「SNSへの投稿も大歓迎!」と竹宮さん。店内にはシューケア用品や、オリジナルのグッズや服なども並ぶ。



竹宮淳平さん

<DATA>
「The Fixxers」
【住所】福生市福生 2364-3
【営業時間】午前11時～午後8時
【定休日】水曜日
【SNS】https://www.instagram.com/the_fixxers/
【電話】☎ 513・5692

WORD COFFEE



真下嗣基さん



お店で出すキッシュなどもすべて手作り。

<DATA> 「WORD COFFEE」
【住所】福生市加美平 2-3-10
【営業時間】午前6時30分～午後6時
【定休日】日曜日
【電話】☎ 070・4163・8269

大切なのは、「気軽に話せる」空間づくり

平成28年5月創業の「WORD COFFEE」は市内で最も早い午前6時30分からオープンしているカフェ。朝が早いには理由がある。

店主の真下^{ましも}嗣基^{のり}さんは、オーストラリアへ留学中、地元の人々が早朝からカフェに行き、店員と仕事や家族の話でいつも談笑している姿に魅力を感じた。

「自分たちもお客さんにとって居心地が良く、朝から話に来たくなるカフェを作りたい」と創業を決意。帰国後、夫婦で語学を活かせる環境を探し、ここ福生に店を構えた。

「WORD COFFEE」では今も朝から店内に笑い声とコーヒーの香りが漂う。

「WORD COFFEE」では今も朝から店内に笑い声とコーヒーの香りが漂う。

「WORD COFFEE」では今も朝から店内に笑い声とコーヒーの香りが漂う。

GOONEEDS



entrepreneur

「二つの個人経営の店舗で、理容と美容を両方サービスするのは珍しいんです」と語る、加藤駿さん・真央さん夫妻が平成29年8月にオープンさせた、理・美容室「GOONEEDS」。

元々違う店舗で修業を積んだ二人が、それぞれの得意分野を融合させ、異なるサービスを提供できるのがお店の持ち味だ。実家でも理容室を営んでいることもあり「ずっとやりたかった」から創業にあたり迷いはなかった」と、駿さんは語る。

経営にあたり最も大切にしていることは、お客さんとの「会話」。「作業的な格安店などが増える中、昔の理容室や美容室のような、人と人との接点をもう一度取り戻したい」と、お店がコミュニケーションスポットとなることを目指している。

夫婦経営の強みは「サービスの細かい部分の微調整から、経営スタイルまで何でも話し合えること」。将来的には従業員や店舗を増やして経営拡大も視野に入れている。「何でも話し、まずは試してみる」という精神が、二人を動かす大きな原動力となっている。

昔の理容室や美容室のような「人と人との接点」をもう一度取り戻したい

〈DATA〉「GOONEEDS」

【住所】福生市牛浜 87 植田ビル 1F-A

【営業時間】〈理容〉(火～金曜日) 午前10時～午後11時、(土・日・祝日) 午前9時～午後8時、〈美容〉(月～金・土曜日) 午前10時～午後4時

【定休日】〈理容〉月曜日、〈美容〉月・日・祝日

【HP】sunrisehair0403.jimdo.com/

【電話】☎ 513・3027



加藤駿さんと真央さん



店内の雰囲気やコンセプトなども夫婦で考えたもの。

「結婚を機に、一時期福生に住んだことがきっかけで、市内に店を構えています」と店主の間間広樹さん。前職の大手アパレルメーカーを退職後、福生で何かできないかと探していた時に、偶然出会ったのが現在の3坪の店舗。「面積とかは度外視で、ここありきで何かやれたら面白いな」と考えた。

そこで、アパレル品や日用品などを取り揃えるセレクトショップを平成24年5月にオープン。さらに「オンラインストアを充実させて基盤とすることで、福生だけでなく日本全国へ情報を発信しています」とお店を情報発信の拠点にした。

しかし、オンラインストアを基盤に置く中でも、「話して売るのが一番おもしろい」と、お客さんとの繋がりを何よりも大切にしている間間さん。大きさに関係なく、店舗を持つことの意味がここにあるようだ。「現在では、自分の店舗だけでなく市内のカフェと共同し、出張販売も行っています」と新たな取り組みも。

そんな間間さんの目標は、とにかく長く店を続けて色々な人と接し、福生ならではの「地元ショップ」にすることだ。

福生から日本全国へ、小さな小さなセレクトショップ

〈DATA〉「FUSSA GENERAL STORE」

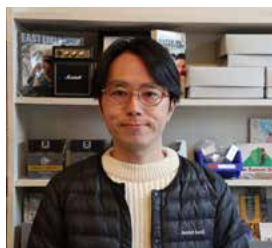
【住所】福生市牛浜 86-2

【営業時間】正午～午後8時(日曜日は午後7時まで)

【定休日】金曜日

【HP】fussageneralstore.com/

【電話】☎ 513・4252



間間広樹さん

FUSSA GENERAL STORE

entrepreneur



高価なものを買うのではなく、手ごろな値段で誰でも買えるものを買う、というのがこだわり。

看護医療系専門予備校「USI」



最も大切な資本とは 何があっても折れない「信念」

平成27年8月に牛浜駅前^{ウチノエスアイ}に設立された看護医療系専門予備校「USI」。元予備校教師である、創業者の高木宏泰^{オホタケ}さんは将来を見据え、一念発起し、自身の予備校を創業した。

創業当時、資金集めに一番苦労したと語る高木さん。「最も辛かったのは最初の1、2年。仕事が軌道に乗るまでには、どうしても大きな資金が必要。時間と努力で認知は広まるが、金銭的体力が先に尽きてしまう」。

そんな葛藤を抱えていた頃、試みに利用したのが市の創業支援。補助金を得ただけでなく、創業支援事業から得た知識

を経営に活かせたと語ってくれた。少子化が進む昨今、敢えて予備校を創業した高木さん。着目したのは看護医療分野。「女性の就職において看護医療界の注目度は年々増しているが、仕事や家庭を持つ方に適した予備校は多くない。自身の経験と知識を活かし、「看護医療系専門予備校」という独自の路線を切り開いた。

「創業で大切なことは、どれくらい儲けたいかじゃなく、どれくらい本気で成し遂げたいことがあるか。根性論にも聞こえますが、信念があればほとんどの壁は乗り越えることができます」。

＜DATA＞ 看護医療系専門予備校「USI」
 【住所】 福生市牛浜 125 Fハウス2階 C
 【営業時間】 午後1時～9時30分（土・日・祝日は午後6時まで）
 【HP】 kangousi.com/
 【電話】 ☎ 849・7457



常に全体が見渡せる教室では、生徒たちの表情が見える。



高木宏泰さん

Next phase

～創業の先、広がる可能性～

「社員雇用」や「株式上場」など多方面に広がる経営の可能性。福生で創業後、新規事業開拓など、大きく躍進する先輩経営者が見ているものとは。

株式会社 くら蔵^{ぞう}



かずよし 佐藤和義さん
株式会社 くら蔵
代表取締役

多くの失敗の積み重ねが 大きな成功のきっかけに

「将来は坊主か社長になりたい。子どもの頃に親戚たちが集まる前でそう口にした佐藤さん。「炭火串焼きと旬の魚、くら蔵」の代表取締役だ。10代の頃、飲食店社長の講演に感銘を受け、飲食店起業を決意。資金集めのため、運送業で働く中、知人から共同経営の声がかかった。24歳で店長として経営を任せられるが、ほかの経営者との意見の違いにより共同経営から離脱することに。

▼創業のきっかけは一本の焼き鳥
 一から飲食の下積みをし直した佐藤さん。偶然立ち寄った焼き鳥屋で美味しさに思わず笑顔になったという。「自分も大勢の人に安くてうまい焼き鳥を食べしてほしい」と、焼き鳥店の創業を決意。7年間の下積みを経て、31歳で焼き鳥居酒屋「くら蔵」を起業した。こだわりは「ほかの店では真似できないこと。破格の安さと品質へのこだわりが好評を博し、市外にも店舗を拡大していった。

しかし、経営に専念できると思っただ頃に、社員たちから相次ぐ退職の知らせが届いた。佐藤さんも現場に戻り、経営を維持しようとするも、

一つの店舗では事業継続が困難に。再起を模索し、着目したのが「ケータリング」という経営スタイルだった。当時、西多摩でケータリングを専門サービスとして扱う店はなく、店舗をケータリング専門店とすることに活路を見いだした。今では地元消防団や保育園など多方面から依頼が来るという。

▼「雇用者」として大切なこと
 さらに大きく改善を図ったのが「社員の待遇」。経営の生命線は社員にあると痛感した佐藤さん。社員が退職する理由を考え、行き着いた結論が待遇面。福利厚生を最優先するために、社員たちと頻りに会議を開いたという。

雇用者として「社員との距離感」が重要と語る佐藤さん。「例えば夜眠っていても、社員とのSNSグループに投稿が上げれば、深夜でも必ず返します。いつでも見てるよ！」
 人雇用することは経営者として「学び」だと話す。「問題も起こるけど、それを乗り越えることで経営者として成長できます。断言できるのは、彼らがいなければ今の僕とくら蔵はありません」。

▼失敗の積み重ねに成功がある
 「経営者として最も大切なことは、ほんの少しでも前へ踏み出すこと。踏み出した先に成功もあれば失敗もあります。失敗を怖がって立ち止まってもそこに成功はありません。何度も進み続けた先に未来（成功）が必ず待っています」。

＜DATA＞
 【住所】 福生市加美平1-13-11「ミズビル1F」
 【営業時間】 午後4時～午前0時（月曜定休日）
 【HP】 www.kurazou.com/
 【電話】 ☎ 530 0008

～すでに創業されている方、そしてこれから創業をお考えの方へ～

福生市の創業支援制度のご紹介

今号の「福生ライフ」では、市内の老舗店や新たに起業された方の事例を紹介させていただきましたが、いかがでしたでしょうか？ 市では、そうした方々を支援する「創業支援制度」を設けています。

福生市では商工業振興の観点から、市内で新しく事業を始められる方、始めてみたいと考えている方、始めてから間もない方などを対象に、さまざまな創業支援を行っています。

支援策は大きく分けて3つから成り、対象事業の一部経費を補助する「コミュニティビジネス支援補助金」、円滑な資金運営を支援する「中小企業振興資金融資制度」、事業計画の明確化を支援する「T. A. F. 創業セミナー」があります。

コミュニティビジネス支援事業補助金

商店街振興策の一環として、市内で新たにコミュニティビジネス事業を創業しようとする方に、出店の際にかかる経費の一部を補助する制度です。補助を受けるには審査を受ける必要があります。

また、市の定義するコミュニティビジネスとは、「地域の抱える課題を解決する事のできる事業」のことを指しますが、ご自身の始めようとしている事業が、コミュニティビジネスに合致するかの判断が難しいこともありますので、興味がある方は一度創業担当までご相談ください。

三市創業支援事業協議会 T. A. F.

三市創業支援事業協議会 T. A. F. とは、近隣市である立川市、昭島市、福生市が連携して創業支援に取り組むことで広く地域の創業希望者を掘り起こし、地域の産業活性化を図ることを目的として発足した協議会です。T. A. F. (タフ) は三市の頭文字から取っています。

T. A. F. では、一年を通して創業を考えている方や創業して間もない方を対象に、さまざまなセミナーや交流会を開催しており、平成 29 年度は全 13 回のセミナーや交流会を開催しました。セミナーでは、受講すると創業時に特典を受けられる認定の要件となっているものや、女性の創業にスポットを当てたものなどを実施しました。また、交流会では志の近い仲間を見つけることができると好評でした。



セミナーの様子

中小企業振興資金融資制度

市内の中小企業および商工業者の健全な活動を促進することを目的に、通常の利率よりも優遇された融資を受けることができます。融資制度は大きく分けて「中小企業振興資金」と「小口零細企業資金」の2つがあります。融資利率は「中小」が年 1.775%、「小口」が年 1.575% ですが、それに対して市から年 1.150% の利子補給を行いますので、事業者の実質負担は「中小」が年 0.625%、「小口」が年 0.425% となりますので、市内の事業者の方であればとても有利な条件で融資を受けることが可能となっています。

融資メニューも従来の「運転」、「設備」、「開業」に加え、平成 29 年度からは「借換」の取扱いが始まり、より使いやすくなりました。申込みは市が提携している金融機関を通じて行います。融資制度をお考えの際はまずご自身のよく利用される金融機関にご相談ください。

～担当者より～

創業支援制度について興味がある方、また内容にわからないことがある方は、まずはお気軽にご連絡ください。

また、セミナーや交流会などの情報は、広報ふっさや市のホームページでご案内していますので、ぜひご覧ください。

【連絡先】シティセールス推進課産業活性化グループ（もくせい会館 1 階） ☎ 551・1699



編集後記

今号は、「福生ではたらく、ということ。」というテーマで9つの事業者の方々取材させていただきました。業種もさまざまでしたが、普段の買い物では聞けないようなお話が聞けて貴重な経験となりました。

一言で「創業」と言ってもその裏にはそれぞれドラマがあり、その一部を垣間見れた気がします。

ご意見をお聞かせください

市民の皆さんに、福生の良さをもっと知ってもらうことを目的に、市民向け情報誌「福生ライフ」を不定期で発行しています。福生ライフをより良いものとするために、皆さんの感想や声をお聞かせください。

ご意見は、市ホームページから、またはスマートフォンなどで、右のQRコードから簡単に投稿できます。



企画・編集・発行

福生市企画財政部秘書広報課広報広聴係（〒197-8501 福生市本町5） ☎ 042・551・1529